

第1章 静岡型小中一貫教育の目的と方策

基本的な考え方

<静岡型小中一貫教育の目的>

- 静岡型小中一貫教育は、「つながる力」（社会的な絆）の育成を目指します。
- 「つながる力」は、シチズンシップ¹やコミュニケーション能力といった人や社会と相互に作用するために必要な資質や能力であり、将来の予測が難しい社会において、地域社会や世界の中で活躍するために不可欠な力です。
- 「つながる力」を身に付けた児童生徒は、「世界的な規模で考えて、身近なところから行動する」ことができます。これは、静岡市、さらには我が国の持続可能な発展に必要な「グローバル人材²」の姿となります。
- 「つながる力」は、静岡市ならではの豊かな教育的資源³を活かし、学校間や地域との協働・交流を強化する「静岡型小中一貫教育」において、さらに育成することができます。

<静岡型小中一貫教育の方策>

- 静岡市教育委員会は、学習指導要領⁴や第2期静岡市教育振興基本計画⁵・静岡型小中一貫教育推進方針⁶を踏まえ、「静岡型小中一貫教育カリキュラム」を策定します。これにより、グループ校の小中一貫教育課程を編成・実施するための基本的な考え方や内容、事例を示します。
- グループ校は、管理職が参加するグループ校運営協議会等の「学校間をつなぐ組織」や保護者・地域代表と学校が参加する小中一貫教育準備委員会⁷等の「学校と地域とをつなぐ組織」を設置します。これにより、小学校と中学校の「たての接続」と、学校と地域社会の「よこの連携」を組織として、強化します。